

# 那須岳の火山防災 もしもの噴火に備えて

那須岳（茶臼岳）は、約1万6千年前のマグマ噴火により形成が始まり、西暦1408年から1410年にかけてのマグマを放出する本格的な噴火で今の山頂ができました。その後、数回の水蒸気爆発があり、最近では1963年に小規模な水蒸気爆発が発生しています。

平成28年9月現在、那須岳は、静穏な状態を保っていますが、火山活動による定常的な地震活動が観測されており、現在も活動を続けている活火山です。

那須岳の噴火に備えた準備と、噴火警戒レベルに応じた避難や対応方法を確認しましょう。

## 那須岳の噴火警戒レベル

「噴火警戒レベル」とは、火山活動の状況に応じて「警戒が必要な範囲」と防災機関や住民等の「とるべき防災対応」を5段階に区分して気象庁が発表する指標です。

日本の活火山の数は現在110となっており、この内37火山で「噴火警戒レベル」が運用され、那須岳においても「噴火警戒レベル」が設定されています。

現在、那須岳の噴火警戒レベルは、レベル1の「噴火予報」で、火山活動の状況は「静穏」ですが、活火山であることに留意が必要です。火口内外に影響を与える小・中規模噴火の際に発表される

レベル2やレベル3になると、「火口周辺警戒」となり、レベル2では火口から半径1.5km程度（那須ロープウェイ山麓駅付近まで）、レベル3では半径2.5km程度（南月山、那須温泉ファミリースキー場、北温泉入口付近）

までが入山や交通の規制範囲となります。さらに、小・中規模の噴火が頻発した場合やより規模が大きい水蒸気爆発やマグマ噴火が発生した場合には、レベル4やレベル5の「噴火警戒」となり、火口から半径4km程度（八幡温泉、黒尾岳登山口、マウントジーンズ付近まで）が入山や交通の規制範囲となります。

## 那須岳の噴火の影響

那須岳では、数千年から数百年に一回程度の割合で水蒸気爆発、数千年に一回程度の割合でマグマ噴火が発生しています。

水蒸気爆発では、噴火の規模によつては概ね火口から2.5km程度まで噴石が落下することがあり、重大な影響は火口の近くに限られます。降灰は、風向き等にもよりますが、少量ながら町の広範囲に影響を及ぼすことが予想されます。

マグマ噴火は、マグマが直接地表に噴出される噴火であり、一般的に水蒸気爆発より規模が大きくなります。また、降灰は、風向き

等によつて様々な方向に影響がおよびます。長期に渡つて山麓までの広範囲（過去には室野井、広谷地、池田、大沢付近まで）で、溶

岩流、火砕流、融雪型泥流（冬季）や土石流が発生しやすい状態が続きます。

## 噴火警戒レベルに応じた応急対応

警報	レベル	レベルの説明	応急対応
噴火予報	1 活火山であることに留意	火山活動は静穏。状況により、山頂火口内および一部火口外に影響する程度の火山灰噴出の可能性あり。	○状況に応じて火口内への立入規制を行う。
火口周辺警戒	2 火口周辺規制	山頂付近から小規模噴火が発生し、半径1.5km程度まで大きな噴石が飛散することが予想される。	○住民は通常の生活（一部を除く） ○火口周辺への立入規制 ○那須ロープウェイの運行中止 ○登山者（入山者）等の避難誘導
	3 入山規制	山頂付近から中規模噴火が発生し、半径2.5km程度まで大きな噴石が飛散することが予想される。	○住民は通常の生活（一部を除く） ○避難行動要支援者の避難準備（必要に応じて） ○登山禁止・入山規制 ○規制範囲内の宿泊者等の避難
噴火警戒	4 避難準備	小～中規模噴火が頻発し、火砕流・融雪型泥流（冬季）が居住地域まで到達するような噴火、または大きな噴石が4km程度の範囲まで飛散するような噴火が予想される（可能性が高まってきている）。	○警戒が必要な居住地域での避難準備情報の発令 ○避難行動要支援者の避難開始 ○対象地域内における観光施設等の営業中止
	5 避難	上記の噴火が発生または切迫している状況にある。	○警戒が必要な居住地域への避難勧告（または避難指示）の発令 ○対象地域内における観光客等の避難誘導